

## 創立70周年記念 令和3年度 愛知県母子寡婦福祉大会

創立70周年記念 令和3年度愛知県母子寡婦福祉大会が小規模ながら、無事に終了しました。コロナ禍のため一年遅れでの開催でした。

愛知県母子寡婦福祉連合会は、「わが幸はわが手で」の合言葉のもと、戦争未亡人達が、互いに慰め合い、励まし合い、助け合って、共に子どもの健全育成を願って設立された、71年の長い歴史のある団体です。

母子家庭の生活の安定にかかせない児童扶養手当をはじめ、母子家庭のための様々な制度が整った背景には、多くの先輩方の力強い団結と並々ならぬ活動の歴史があります。

多くの方々に支えられてきた70年の歴史の重みを振り返りお祝いしました。愛知県知事感謝、優良母子家庭表彰、役員永年勤続感謝、職員永年勤続感謝、中日賞表彰、来賓祝辞、中日賞体験発表、大会決議、申し合わせ事項などの日程で開催されました。



### 中日賞体験発表

#### 「大きな悲しみも今では光陰矢の如し」半田市 稲生洋子

昭和55年4月私を突然襲った大きな悲しみ、それは39歳の夫のあまりにも早すぎる突然死でした。

同居していた義理の両親を送り一年目のことでした。その日まで会社へ行っていた夫は急性心不全で一晩の内に亡くなりました。

当時私は36歳、小学校一年 四年 六年生の三人の子どもが残されました。

幸い若い頃、公務員をしていた事もあり半田市の外部団体へ中途採用され勤めと育児の二足のわらじをはき無我夢中で生きて参りました。

近くへ嫁いだ事もあり、実家の母や妹がよく助けてくれ、カギツ子

にすることが無かったのは、有難かったです。

まさに光陰矢の如し、三人の子ども達も各々結婚、六人の孫に恵まれ、親としての私の役目は終ったと安堵しています。

西尾市へ嫁いだ娘が、時々訪ねてくれ良き話し相手になってくれてあります。

60歳で定年退職後は、地域の公民館や老人会の役も務めさせて頂き地域の人々とのふれあいに楽しい日々を過ごしています。

入会以来支えてくださった半田市の母子会の為に、微力ではありますがお役にたてるよう努めて参りたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

#### 「残された家族」西尾市 佐藤和代

私の夫は、急性肝炎から五年後肝硬変になり45歳で他界しました。

担当医から余命長くて三ヶ月と私に告知され一ヶ月半でした。説明の後、目の前が真っ暗になったが「急性肝炎の治療が長びきそうなんだって。」と笑顔で偽った。

とても辛かったです。

一ヶ月過ぎた頃、本人は覚悟していたのか私に「隠さず、はっきり言ってくれ。」と懇願され仕方なく肝硬変の末期であることを告げたら涙を流し、ベッドの布団の上に顔を伏せていた私の頭をやさしく撫でながら「よくここまで我慢して頑張ってくれたなあ。」と喜んでくれました。

夫はブティックを三軒持ち七人の店員さんのお給料を、むしばまれ、薄れゆく体にモルヒネを打ちながら病室で計算し私は銀行へ走りそして袋詰めをしていました。子ども達が三人成人していれば、お店も存続出来ただろうがとても無理な事、泣く泣く手放す事になりましたが、借金なしの経営方針には、尊敬と感謝の念しかありませんでした。

しかし、私41歳、夫の父と息子三人、小学一年、三年、五年生でした。全て夫に頼っていた私の肩に重責がのしかかり不安と悲しみに明け暮れ何もやる気力が無く体と足は鉛につながれているような感覚で引きずっていました。

私の元気のなさ、暗い毎日を子どもなりに、淋しさを感じていたのか、ある日友人からの電話で私が笑い声を上げたら切った後に、子ども達が「お母さんは笑ってた方がいいよ !!」と言ったのです。その言葉に、ハッと我に返りいつまでも悲しんでいてはと、私はこれから三人の子ども達を守って行かねば、そして全てに惨めな思いをさせまいと前向きに進もうと、考え直しました。

そして半年後、仕事先をさがし回り、銀行パート14年、市役所10年臨時職員として働きました。子ども達の為、通勤も近く、土日祝日休みの条件は願ったりかなったりでした。

子ども達の学校行事は必ず参加し個人面談では成績よりも、学校、先生、友達に迷惑をかけていないかをたずねたら「三人共、性格は明るく友達の面倒見も良く仲良くやっていますよ、お父さんを亡くされていた事を知らなくてすみませんでした。」との事。それだけ聞いてホッと安堵しました。

現在は、三人の息子達も大学を出て就職し家庭を持ち、七人の孫に恵まれました。

義父は八十歳で他界し、私は共働きの長男夫婦と同居し二人の内孫の面倒を見ながら、やさしいお嫁さんに日々、幸せを感じています。



左：佐藤さん 右：稲生さん